

月刊 小林のぶゆき

第2号
2011年2月発行号

見える
わかる
変わる
今こそ横須賀を
私たちのものに

無所属35歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索
住所 横須賀市野比2-13-18
☎ 070-6640-3927
FAX 050-3737-1652
✉ info@kobayashinobuyuki.com ↑
Web http://kobayashinobuyuki.com

1975年(昭和50年)9月3日生。妻と息子の3人家族。筑波大学卒。地域情報誌社勤務の後、環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。2008年、政策秘書資格試験合格。衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書を経て現在に至る。地域通貨イッチプロジェクト事務局長など市民活動にも関わる。

第一特集

ち 横須賀さん家の家計簿①

市の予算をゴツソリ組み換え。ハコモノから命ヘスクラップ&ビルド。

第二特集

ヨコスガ「給食白書」②

中学校給食をとりまくオドロキの現状

みんなの声、続々。一部ご紹介します

次回予告:「地域を元気に」横須賀さん家の家計簿②借金編をお伝えします。

第一特集

ち 横須賀さん家の家計簿① 市の予算をゴツソリ組み換え ハコモノから命ヘスクラップ&ビルド

「横須賀市の財政は大変厳しい」。そんな話を聞いたことがあると思います。ではどの位厳しいのか? わかりやすくするため、あえて単純化し、たとえ話で考えてみたいと思います。

「エンゲル係数」が高い!

「自治体のエンゲル係数」と言われる経常収支比率という数字があります。横須賀市の場合、97.3%とかなり危険水域*1です。

これを横須賀さん家の家計に

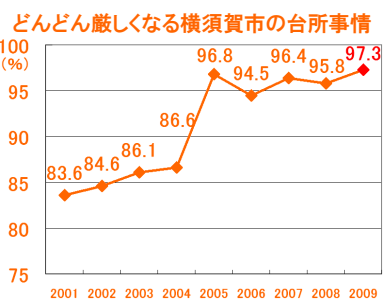
たとえば、給料が20万円だとすれば、194,600円が食費や家賃、光熱費、ローン返済など必要経費に消えていって、5,400円しか自由に使えるおカネがないような状態です。おじいちゃんを老人ホームに入れることも(福祉予算)、子供を塾に通わせることも(教育予算)、耐震強度不足の家を建て替えることも(インフラ更新)できません。とにかく、「食べていくので精一杯」「新しいことなんて何にもできない」という状況です。

あのお金があれば……。

色々な事が悔やまれます。「生活に潤いを」と思って、ローンを組んで高価な絵画を買い(47億円で横須賀美術館を建設)、立派なホームシアターも買い揃えました(396億円で芸術劇場を建設)*2。家が手狭になると思って、増築しました(545億円かけて平成町を埋め立て)。その後、子供がどんどん家から巣立っていったので(人口減少)、いま思えば増築しなければよかったかも。あのお金があれば、こんなにローンが膨らまず(市債 2,991億円)、家族のためにあんなこともこんなこともしてあげられたのに……(涙)。(さて、その出費を決めたのは誰だったのか? よく考えてみてくださいね)

家計をゴツソリ組み替える

過去を悔やんでも悔やみきれませんが、横須賀さん家が



苦境から脱出するには3つの方法があります。

- ①がんばって給料(税収)を増やす。
- ②切り詰めて出費(歳出)を減らす。
- ③持っているもの(資産)を売る。

家計のやりくりと基本は一緒です。でも今の不景気では給料を増やすのも大変です(もちろん企業誘致や人口増、基地交付金増額には努めます)。資産もあまりないし売れてもバブル期ほど高くは売れません。そうすると、とにかく出費を減らすしかありません。

みなさんが、支出を減らすにはどうしますか? まず、ムダなものは買わないようにするはず。次に、ケータイのプランを見直したり、保険を安い会社に切り替えたりするかもしれません。しかし、こういった調達改善にも限界があります。そこで、「ケータイがあるんだから固定電話は要らない」「自動車と駐車場を手放して、自転車に乗ろう。ダイエットにもいいし」と、発想を転換して家計をゴツソリ組み替えることでしょう。

横須賀市にも組み替えが必要です。たとえば、横須賀芸術劇場に年間5億5千万円、横須賀美術館に年間3億8千万円の管理運営費がかかっていますが、独立採算化や売却すれば合計9億3千万円が浮きます。「財政が厳しい」と言っても、実はハコモノを中心に、まだまだ見直す余地はあります。

ハコモノから命への、スクラップ&ビルド

芸術は大事ですし、どんな事業にも必要性はあります。しかし財源が限られている今、大切なのは「その予算は、命をまもることより大事な予算か?」「子供たちの未来への投資か?」という視点で、優先順位の低い事業を廃止(スクラップ)することです。こうして捻出したお金を、救急医療・アスベスト被害者対策・教育環境整備・キャリア教育等、命や未来に最優先で投資(ビルド)すれば、今は苦しくても将来には希望が持てるようになります。

*1:横須賀のような都市部では、75%~80%程度が適正水準と言われる。80%を超えると余裕がなくなってきて、100%はいわば余裕ゼロ。*2:芸術劇場の事業費には横須賀市産業交流プラザ分約20億円も含まれている。

第二特集 ヨコスカ「給食白書」② 中学校給食をとりまくオドロキの現状

狛江市のボックスランチ(コロケカレーライス)→



保育園編に続き、中学校編でお伝えします。 **公立中の完全給食割合**

中学校の「給食白書」

前回、市内の公立中学校24校中、1校も完全給食がないことをお伝えしました。そこで、他では一体どうなのか? 気になって全国や近隣の市町村の状況を取材してみました。

※学校数ベース ※市町村については2011年1月13日時点の各自治体への独自取材による ※全国と府県については文部科学省の2009年度調査結果

地域	割合
全国	81.6%
千葉県	100.0%
富山県	100.0%
愛知県	100.0%
東京都	96.0%
神奈川県	16.1%
大阪府	7.7%
三浦市	100.0%
横須賀市	0.0%
鎌倉市	0.0%
横浜市	0.0%
逗子市	0.0%
葉山町	0.0%

すると、全国では給食を提供している公立中学校が81.6%と圧倒的に多いようです。また、千葉・富山・愛知の3県が100%なのに対し、ワースト1の大阪が7.7%、ワースト2の神奈川が16.1%。近隣の市町村では、三浦市が全4校で実施している一方、他のお隣さんは軒並みゼロ。都道府県や市町村によってかなり差がありました。

すでに給食100%の、市内の小学校はどうしてるの?

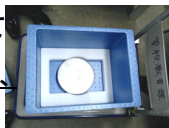
何とか横須賀でも中学校給食を実現できないでしょうか? 色々な方法がありますが、市内の公立小では各学校の調理室で作っています(自校方式)。教育委員会に頼んで費用を積算してもらったところ、47小学校 21,608名に対し年間約9億8千万円*1。公立中学校は24校 10,206名と半分程度ですから、同方式だと単純計算で5億円程度が必要かもしれません。

逗子市は「ボックスランチ方式」を検討

ただし、少子化が進む中で新たに調理室を増設するのは得策なのか? 市の財政も厳しいので、新規投資には二の足を踏みます。そこで、お隣の逗子市では2014年に「ボックスランチ方式」の給食を導入する方向で進んでいます。ボックスランチとは、要するに「温かい仕出し弁当」です。委託業者の調理場で作られ、保温機能付きの配膳用ケースに入れて

各学校に配送されます。県内ではすでに、相模原市、海老名市、愛川町がこの方式を採用しています。

狛江市の保温機能付き配膳用ケース↑



私が尊敬する高野たけし逗子市議会議員に

東京都狛江市に視察に行った結果を教えてくださいました。

狛江市では、給食かお弁当持参か、月間メニューを見て一日単位で選べる仕組みで、1食300円。毎日2種類から選べ、片方はアレルギーの子対応にもなっているそうです。選択肢が色々あるのは親御さんも子供もうれしいですね。

逗子市には3校1,174人の生徒がいますが、業者委託料として初期費用約1610万円、年間約6068万円と試算しています(食材代は別で、給食代1食300~400円でまかなう)*2。これを生徒数で単純計算して横須賀市に当てはめると、初期費用1億4千万円程度、年間5億3千万円程度が見込まれます。年間5億5千万円かけている文化施設を1つ休館すれば、今すぐ出せる金額です。予算の優先順位を間違えてないでしょうか?

検討しないで委員会(いいんかい)?

横須賀市には「学校給食検討委員会」があります。その議事録を読んだところ、驚いたことに中学校給食については一切検討してませんでした! 代わりに議論していたのは小学生の家庭の食育とかでした。私はこれも優先順位を間違えていると思います。「学校給食法」では、市町村は給食の普及に努めなければならないと定めています。どんな方法があるのか? いくらかかるのか? 問題点は何か? 逗子市みたいに、検討だけでもすればいいんじゃないでしょうか? 検討した上でムリならいいんです。そう思いませんか? 学校保健課が議題を決めているので、次回以降取り上げるよう申し入れておきました。

なお、「中学校でボックスランチを導入すると、小学校も引きずられて自校方式じゃなくなる恐れがあるので調理員や納入業者が反対する」「負担が増えるから学校の先生たちが反対する」といった声も聞きました。私はそもそもそんなこと言わないと思いますし、本質的な問題ではありません。問題は「中学生のためにどうか?」です。課題があれば、他の市町村に習って解消できるでしょう。それに、現在の小学校自校方式の場合、食材費を含めても生徒1人当り年間45,353円で給食が提供できていますが*1、逗子市ボックスランチ形式では食材費は別で1人当り51,686円かかる試算です。つまり、既に設備投資が済んでいる小学校自校方式にはコスト競争力もあるはず。むしろ小学校で中学校分も作る方式もあります。また地域調達を条件化すれば地域に雇用創出も経済波及効果も期待できます



↑高野たけし議員。ウインドサーファのイクメン議員

*1 2009年度実績。食材代、調理人の人件費、設備の保守、設備更新など一通り含まれているが、光熱費は学校全体の費用と切り分けられないため含まれていない。*2 逗子市立中学校給食実施検討委員会報告書

みんなの声、続々。一部ご紹介します。

うちのポストに入っていたチラシを見て、市内の中学校に給食がないなんて初めて知った。私は子供いないけど税金のムダ遣いをなくして介護や給食に使ってくれるなら喜んで税金払う。アンタ、頑張りなさいよ。(60代女性)

今後も徹底調査でお伝えし、変えるためにガンバります!

僕もおじちゃんの言うこと、その通りだと思うよ。がんばってよ。(小学5年生?男性)

「ハコモノから命へ」と演説中、ならむように私を見ていたので、何か文句を言われるのかと思ってたら、こう言われました。子供は真剣です。

私は、お母さんが亡くなってしまったので、自分でお弁当を作ってきた。小林さんは「わからなかったから変わらなかつた」と言うけど、実際には、わかっていたのに変えてこなかったんじゃないですか? (中学3年生女性)

とても重い言葉でした。活動を休止してしばらく考え込んでしまいました。大人の責任は重いと思います。「高校に合格したんです」と明るく言ってくれたのが救いでした。

子供がアレルギーで小学校でも弁当持参。対応を(女性)

中学のボックスランチを流用すれば対応可能かもしれませんね。

応援してください!

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- 事務作業
- ご自宅への看板設置

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。

必ず私、小林伸行が自分で目を通します!

E-mail: info@kobayashinobuyuki.com Fax: 050-3737-1652

小林のぶゆきの基本政策

見える 誰が何をどう決めているのかわかんない……。

市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

わかる 難しい説明をされてもよくわからない……。

いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

変わる これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。

現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。

